

# 地方都市視察報告書

文教子ども家庭委員会

- 1 実施日 令和5年11月1日（水）
- 2 視察地 鹿児島県鹿児島市

## 【市の概要】

- (1) 面積 547.07km<sup>2</sup>
- (2) 人口・世帯数  
(令和5年11月1日現在)  
○人口 595,503人  
○世帯数 303,965世帯



- (3) 鹿児島市は、鹿児島県本土中西部に位置し、鹿児島県内の薩摩半島の北東部及び桜島全域を市域とし、福岡市、北九州市、熊本市に次ぐ九州第4位の人口を擁する南九州地域の政治・経済・文化・交通の中心地である。

江戸時代、禄高77万8千石・天下第二の雄藩で薩摩・大隅（鹿児島県）・日向（宮崎県南部）の三国を治めた島津氏の城下町として発展し、以来500年にわたる島津氏の統治下のもと、鹿児島市は南九州一の都市として繁栄した。また、近代日本の黎明、明治維新においては、薩摩藩の元勳西郷隆盛・大久保利通など、幾多の人物を輩出し、近代日本建設の礎となる。

明治4年に廃藩置県とともに県庁の所在地となり、同22年には市制が施行された。その後、第二次世界大戦の戦火で市街地の約9割を焼失したが、戦後は観光・商工業の発展とともに市域も拡大し、昭和42年には隣接する谷山市と合併して人口38万人の新鹿児島市が誕生、同55年には人口50万人を突破した。

さらに、平成元年に市制施行100周年を迎え、平成8年には中核市に指定された。また、平成16年には隣接する5町と合併したほか、平成23年には九州新幹線が全線開通するなど、政治・経済・社会・文化等高次な都市機能が集積した南九州の中核都市として発展を続けている。

- 3 視察項目・内容  
鹿児島市すこやか子育て交流館（りぼんかん）について

- 4 視察参加者

## 【委員】

|           |            |          |
|-----------|------------|----------|
| 三沢 ひで子委員長 | 近藤 なつ子副委員長 | 小野 裕次郎委員 |
| 鈴木 ひろみ委員  | 渡辺 清人委員    | 渡辺 やすし委員 |
| おやまだ 静香委員 | 有馬 としろう委員  | 下村 治生委員  |

## 【随行】

議会事務局議事係 川野辺 洋 黒木 明子

## 5 視察結果・所感

桜島からの降灰や夏期の暑さという地域特性のため、従来から「室内で児童が遊べる場」を求める地域の声があった。そのような状況を受け、市長公約として、従来の市の福利厚生施設を改修し、平成22年10月に「すこやか子育て交流館（りぼんかん）」を開館した。

施設の改修に当たっては、子育て世代のご意見を聞きながら進めていった。そのため、1階から5階までのゆとりのあるスペースには、「じゃぶじゃぶひろば」、「さらさらひろば（砂場）」、「大型の滑り台など大型遊具」など、児童や子育て世代に魅力的な設備が設けられている。また、「じゃぶじゃぶひろば」は、従来の施設を活用するといった工夫がされていた。

実施事業としては、①講座、交流事業（親子料理、工作、リズム体操、新米ママパパ講座、敬老イベントなど）、②相談事業（個別相談、ことばの相談、子育てお悩み相談など）、③一時預かり、④子育て支援ネットワーク（子育て団体等の育成、支援）などを行い、総合的に展開している。また、各種事業の実施に当たっては、事前に館内放送で周知するなど、丁寧な対応をしていた。

新宿区においては、「土地が狭い」という地域特性ではあるが、例えば、事業実施前に館内放送で周知するなど、鹿児島市の事例を参考にして工夫していく余地もあるのではないかと思われた。

## 6 主な質疑項目

- (1) 子育ての相談件数や状況について
- (2) 「じゃぶじゃぶひろば」、「さらさらひろば」などの利用状況や運営について
- (3) 開館以降、両親の不安や負担が軽減したデータやエピソードについて
- (4) 地域の状況（桜島）に合わせた室内施設の充実について
- (5) 館内放送での事業の周知などの運営について
- (6) 施設内の砂場などの施策について

## 7 その他

### 【共同視察者】

子ども家庭課長 徳永 創

